

ふれあい西本郷小

令和4年度

11月号

横浜市立西本郷小学校 学校だより

令和4年10月28日(金)

一人ひとりがかがやき、みとめ合い、つたえ合い、たかめ合う西本郷小の子
キャッチフレーズ:あいさついっぱい みんながえがお 西本小

一生懸命はかっこいい

校長 活田 宏輔

6年生が修学旅行で訪れた日光市の輪王寺で、冬の訪れを前に松の木を害虫から守るための「こも巻き」が行われたそうです。ここ横浜でもすっかり秋を思わせる空気を感じます。先日の運動会では、気持ちのよい秋の空気に包まれて、子どもたちが力いっぱい演技や徒競走に取り組むことができました。

閉会式で子どもたちに3つの質問をしました。「全力を出せたか。友達と力を合わせたか。笑顔いっぱいだったか。」今年の運動会のテーマです。全ての質問に大きな拍手が返ってきました。子どもたちの表情は自信に満ち溢れています。運動会は成功だったと会場のみんなが感じた瞬間でした。

とりわけ大きな拍手だったのは、自分たちが「全力を出せた」ことでした。閉会式でも紹介しましたが、6年生は練習や活動の度に、その時間を振り返り、課題を見つけ、次に生かそうと話し合いました。話し合いをまとめた表は、教室前の廊下に張り出して、全員が見られるようにしました。もちろん5年生や他の学年も見ることができます。

その反省の中に「失敗を笑わない」「全力をばかにしない」等の言葉がありました。練習の中では、全力をためらうこと、気持ちが前に向かないこともあったのでしょうか。その度に話し合い、確認することで、ためらう気持ちが減り、全員の気持ちがまとまっていったのだと想像します。実は、失敗を恐れたり自己表現をためらったりすることは全ての学年で見られました。学年の発達段階に合わせて教師が適切に関わりながら子ども中心に意識を高めていきました。保護者からもそれに関わる多くの声がアンケートで寄せられています。「演技のときにニコニコしている子が多くて癒された。」「ただダンスを踊っているのとは違い、作り上げようとしている姿が見えた。」「ダンスの途中、かっこいい場面で自然と児童席にいた子どもたちから拍手が沸き起こり、優しさや温かさを感じた。」「勝負という枠組みでなく、協力(という枠組み)として楽しい運動会という感じを受けた。」

子どもと先生が時間をかけて「本気」を積み上げ、いつしか恥ずかしさやためらいが和らいで、一生懸命な姿を誰も笑わない…

「一生懸命はかっこいい。」これは私が子どもたちから受け取ったメッセージです。